

横浜市結核通信

発行 2024年11月
 担当 横浜市医療局健康安全課
 健康危機管理係(結核担当)
 電話 045(671)2729

新登録結核患者数と罹患率の推移

横浜市の2023年1月1日～12月31日に新たに登録された結核患者数は301人、結核罹患率※1は、8.0でした。結核低まん延水準である10.0を下回っていますが2022年と比較し0.4ポイント増加という結果でした。更なる早期発見・早期治療、治療完遂への支援等が求められています。



※1 罹患率:1年間の新登録結核患者数を人口10万対で表したもの

横浜市の新登録結核患者のうち20代では半数以上が外国出生者です

日本では過去の病気と思われがちですが、今でも世界の死亡原因のトップ15に入り、世界ではエイズ、マラリアと並ぶ「世界の3大感染症」の1つに挙げられます。

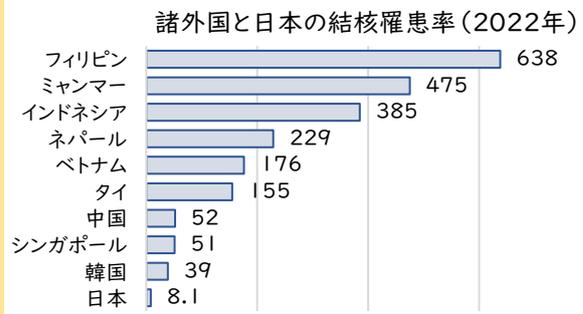
全国同様、横浜市でも若年層の結核患者は、外国出生者が増えています。今後、結核高まん延国からの在留外国人の増加とともに外国出生者結核の増加が予想されます。

(人) 横浜市 年代別・新登録結核患者(2023年)



世界の結核

世界では総人口の約4分の1が結核に感染しています!
 新たな発病者数:1,060万人(2022年)
 結核死亡者数:200万人(毎年)



【参考】厚生労働省2023年 結核登録者情報調査年報集計結果

※横浜市外国出生者結核新登録患者数33人(2023年)
 横浜市の外国出生者新規登録者の出生国は中国、フィリピン、ベトナム、ネパールに多くみられました。

結核とは

主に空気中に漂う結核菌が肺に入って感染することでおこる病気です。

肺に炎症が起こる肺結核が一般的ですが、全身の臓器に発病します。

感染してもすべての人が発病するわけではなく、健康であれば免疫の働きによって発病することなく過ごすことができます。

結核に感染した

結核菌が体内に入った状態です。菌は免疫力で抑えられ、症状はありません。

周囲の人にうつす心配はありません。

結核になった

結核菌が増えだし、肺など身体の一部に炎症を起こし、発熱や咳・痰といった症状が出た状態です。

症状

- ・2週間以上続く咳・痰・発熱・血痰・胸痛
- ・全身のだるさ・寝汗・体重減少

結核は正しく理解し適切な治療を行えば治る病気です。



治療

方 法：複数の薬を内服します。

期 間：標準は6～9か月間

注意 事項：症状が良くなっても服薬を途中でやめないこと。やめてしまうと菌の増殖が抑えきれず再燃します。

入院について

・痰の中に菌が見つかった→入院治療

・痰の中に菌がない→普段通りの生活

結核を発病たと診断されても痰の中に結核菌がない場合は周囲の人にうつすことはありませんので、普段通りに生活できます。



結核の治療を安心して続けていただくために、結核の治療費の一部を公費で負担する制度があります。結核の治療を確実に続けられるように保健師がサポートを行います。

学校における感染症対策

- ・うがい、手洗いの習慣
- ・咳エチケットの励行
(有症状時のマスク着用)
- ・定期的な部屋の換気

学校における健康管理

- ・1年に1回は胸部エックス線検査を実施。
- ・気になる症状がある時はすぐに受診

結核定期健康診断補助事業

日本語教育機関の生徒に実施した結核定期健康診断に対して、費用負担の軽減制度があります。

■補助内容：胸部エックス線検査の費用の一部（精密検査は補助対象外）

■制度の利用方法：横浜市のホームページからダウンロードし、申請書類を提出

■申請書類提出締め切り日：令和6年12月6日（金）必着

■申請書類提出先：所在区の福祉保健センター福祉保健課 健康づくり係

横浜市 結核定期健康診断補助事業 で検索